

平成30年度 墨田区産業振興会議報告書

～区内産業のさらなる発展に向けて（ハード編）～

平成30年11月

目次

検討の背景	・・・・・・・・	1
区内産業支援施設の現状・課題	・・・・・・・・	2
1 テクネットすみだ	・・・・・・・・	2
2 新ものづくり創出拠点	・・・・・・・・	3
3 国際ファッションセンター	・・・・・・・・	5
4 すみだ産業会館	・・・・・・・・	6
区内産業支援施設の今後の方向性	・・・・・・・・	9
1 区内産業支援施設のあり方	・・・・・・・・	9
2 各施設の今後の方向性	・・・・・・・・	10
結び	・・・・・・・・	14
資料編 ～平成30年度墨田区産業振興会議の概要～	・・・・・・・・	15

検討の背景

墨田区では、産業支援施設を整備し、これらの機能を発揮することで区内産業の振興を推進してきた。しかし、施設の老朽化は進み、区内製造事業者数の減少等により、これら施設を取り巻く地域の環境等も大きく変化している。

このため、平成 30 年度墨田区産業振興会議では、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」を契機と捉え、以下の 4 つの区内産業支援施設の現状と課題・機能と役割・今後の方向性及び産業振興施策の今後の展開について検討を行った。

テクネットすみだ

新ものづくり創出拠点

国際ファッションセンター（KFC）

すみだ産業会館

区内産業支援施設の現状・課題

1 テクネットすみだ

(1) 概要

「工房サテライト」(工場アパート)は、老朽化が著しい工場施設の改善や手狭になった工場の移転先として、墨田区工業振興マスタープラン(昭和63年3月策定)で位置付けられた。その事業実現のための組織として、平成3年度には「協同組合テクネットすみだ」が設立された。

中小企業高度化資金の融資活用により、平成5年1月には、「テクネットすみだ」が竣工し、協同組合に加入する機械金属加工や木工家具製造等の事業者が入居した。以来、工場アパートとして活用されてきている。

住所：墨田区立花5-9-5

敷地面積 1,219.39 m²

延床面積 2,207.46 m²

1階 628.77 m²、中2階 119.14 m²、2階 558.74 m²、

3階 487.21 m²、4階 413.60 m²

道路：北西側 両側歩道付舗装区道・墨122号線(通称：中居堀通り)

交通：東武亀戸線「小村井」駅から徒歩約7分

(2) 現状

テクネットすみだは、現在、入居する12社(組合員6社、組合員以外6社)により運営されているが、高齢化による後継者不足や工場スペースの過不足等により、廃業や工場移転が進み、空き室が出てきている。また、開設から25年経過し、施設の老朽化も進んでおり、テクネットすみだ自体の価値が十分に高まっていない。

区は、平成30年8月から産業振興施設として活用するため、2階の一部(349

m²)を借り上げている。

< テクネットすみだ関連企業 >

所属	企業名	企業数	備考
組合員	(株)ツバタ、(有)シベール、ヒキフネ金属工芸、金星ゴム工業(株)、西廣紙器製作所、楓岡工業(株)(既に廃業・名義のみ)、(有)間中木工所、(有)三恵商会	8社 (開設当初は10社)	金星ゴム工業(株)については、現在は入居していない。
組合員以外	(株)伸和工芸、(有)伊藤彫刻、岩井技研、ピアージュ・ジャパン、二葉桐工房、楓岡ばね工業(有)	6社	組合または組合員から部屋を賃借し、入居している。

(3) 課題

テクネットすみだでは、今後、入居企業の経営者の高齢化、後継者の不在から、空き室がさらに増加する可能性が高い。空き室が出るたびに、その活用策を検討することは、根本的な問題の解決につながらない。

このため、施設のリノベーション等を図り、建物としての利便性や価値を高めることにより、人が集まる施設として、継続的に施設の維持ができる仕組みを構築する必要がある。

2 新ものづくり創出拠点

(1) 概要

「新ものづくり創出拠点整備事業」は、墨田区産業振興マスタープラン(平成25年3月策定)具現化事業の1つとして、平成25年度から開始された。

新ものづくり創出拠点は、外部から新しい発想を持った人材を呼び込み、区内事業者や区民等と結び付けることで、ものづくりのイノベーションと地域活性化の喚起を図るものである。

補助率：10/10

補助限度額：20,000千円

(2) 現状

現在までに9拠点を整備し、平成30年度に1拠点を整備する予定である。

ものづくりベンチャーによる新規事業の創出やデザイナー等の流入が生まれている拠点や、世界各国から人が集まるコミュニティの場となっている拠点もあり、各拠点では様々な取組が行われ、メディア等にも取り上げられている。

一方、開設当初の目的を十分に実現できていない拠点もあり、区内事業者との連携や地域住民等による活用が求められる。

<新ものづくり創出拠点>

採択年度	拠点名	運営事業者	住所
平成25年度	Garage Sumida	(株)浜野製作所	墨田区八広 4-39-7
平成25年度	レザーラボ MEW	(有)丸ヨ片野製靴所	墨田区太平 1-1-6
平成26年度	co-lab 墨田亀沢	(株)サンコー	墨田区亀沢 4-21-3
平成26年度	レル community	(有)さいとう工房	墨田区本所 4-27-3
平成27年度	nuuiee	(株)小倉メリヤス製造所	墨田区石原 3-12-9
平成27年度	アグリガレッジ研究所	(株)リバネス	墨田区八広 3-39-5
平成27年度	両国メルティングポット	(株)島田商店	墨田区両国 3-21-10
平成28年度	すみだ和ガラス館	廣田硝子(株)	墨田区錦糸 2-6-5
平成29年度	lDo	(株)CRAZY	墨田区東駒形 1-15-12
平成30年度	未定	(有)CEMENT PRODUCE DESIGN	未定

(3) 課題

事業者ごとに運営のノウハウを構築しつつあるが、各拠点の代表者が運営の中心として活動することが多いため、運営のノウハウを拠点同士で共有する必要がある。

また、拠点を運営することによるメリットを自社ビジネスに結び付けるだけでなく、地域産業の持続的な発展に向けた事業展開や仕組みの構築が求められる。このため、その成果や取組について、区内外に対し、一層、情報発信することが必要である。

3 国際ファッションセンター（KFC）

（１）概要

昭和 63 年通商産業省（現、経済産業省）が提唱した「繊維リソースセンター構想」を踏まえ、平成 2 年に区が「ファッションセンター基本計画」をまとめ、平成 3 年 9 月には、国際ファッションセンター株式会社が設立された。

国際ファッションセンターは、ファッション関連産業の将来を担う人材育成や産業振興のための各種事業を行う産業支援施設として、平成 12 年 4 月に開設された。

住所：墨田区横網 1 - 6 - 1

道路：東側 両側歩道付舗装都道・環状 3 号線（通称：清澄通り）

交通：JR 総武線「両国」駅東口から徒歩約 6 分

都営大江戸線「両国」駅から直結

（２）現状

国際ファッションセンターの売上・経常利益は、不動産賃貸収入をベースに年々増加傾向にあり、良好な財務状況にある。

一方、産業支援事業としては、人材育成、販路開拓支援、展示会出展支援、創業支援、情報収集・提供を行っているが、開設当初と比較すると、現在は、事業成果が表れにくくなっている。

特に、創業支援事業である「KFC クリエイティブスタジオ」は、入居期間を満了した事業者がそのまま区内に定着することが少ないなど、公的な創業支援施設のあり方が問われている。

< 平成 29 年度 実施実績 >

目的	事業	実績
人材育成	各種セミナー・講座	延べ 81 回
販路開拓支援	『東東京モノヅクリ商店街』プロジェクト（3 期目）	8 社参加 ・ギフトショー出展（1 月） ・出張商店街イベント（3 月）
展示会出展支援	海外合同展示会への出展支援	2 グループ計 23 社出展 （過去 8 年間の支援企業：193 社）
	海外販路開拓セミナー （中国、アジア、アメリカ）	全 3 回、延べ 90 人参加
創業支援	「KFC クリエイティブスタジオ」の 運営管理	・ミニセミナー6 回 ・ミニプレゼン 2 回
情報提供・収集	広報活動	・ホームページ（英語版）の開設 ・Facebook 内容拡充
	見学者受入・外部交流	延べ 53 社来社
	区内事業者交流スペース「ネビュラス」の運営	

（ 3 ） 課題

国際ファッションセンターは、東京ニットファッション工業組合（TKF）、ファッション産業人材育成機構（IFI）、墨田区と連携し、産業振興施策の拡充と効率化を図る必要がある。

事業実施にあたっては、繊維業界だけでなく、幅広い業種に対応した支援と、他地域等と連携した広域的な展開が求められる。

4 すみだ産業会館

（ 1 ） 概要

昭和 54 年度の「墨田区中小企業振興対策調査委員会」において、すみだ産業会館の設置が提言された。これを受け、区内製品等の展示及び PR を目的として、昭和 58 年度に墨田区・丸井共同開発ビルの 8・9 階に開設された。

平成 17 年度からは指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用した事業運営

を行っている。

住所：墨田区江東橋 3 - 9 - 10 8・9 階
敷地面積 6732.02 m ²
建物の延べ床面積：すみだ産業会館専用面積 4069.59 m ²
丸井錦糸町店専用面積 36569.52 m ²
共有部分面積 6155.46 m ²
道路：北側 両側歩道付舗装国道・国道 14 号線（通称：京葉道路）
交通：JR 総武線・東京メトロ半蔵門線「錦糸町」駅から徒歩約 2 分

（２）現状

区内製品等の展示や講座・セミナー開催のほか、会議室（５室）と展示室（サンライズホール）の利用貸出を行っており、高い稼働率を維持している。しかし、会議室・展示室ともに、区内よりも区外からの利用の方が高い割合を占めている。利用目的としても、産業関連の利用が多いとはいえない。

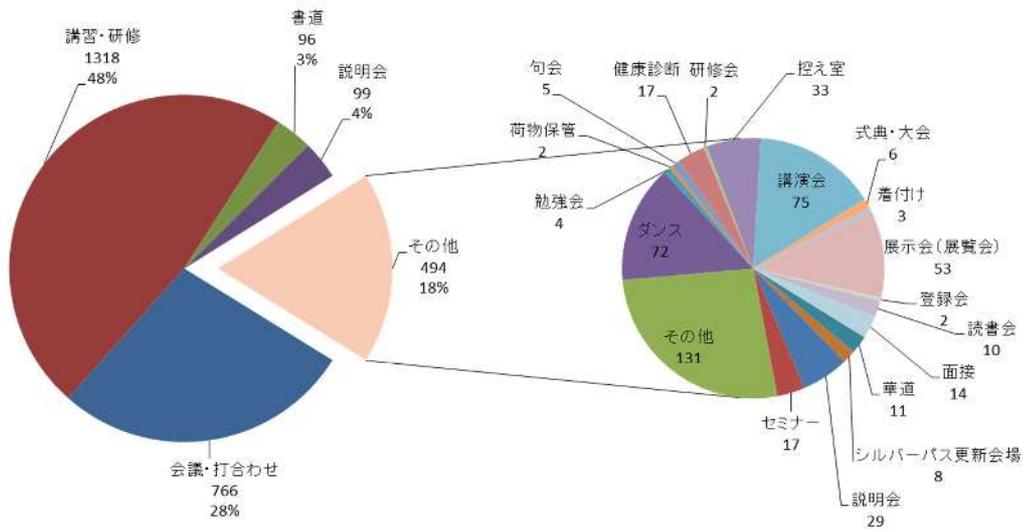
また、内部改修等を行っているものの、開設から 30 年以上経過したことで、施設の老朽化が進んでいる。

<平成 29 年度 実施実績>

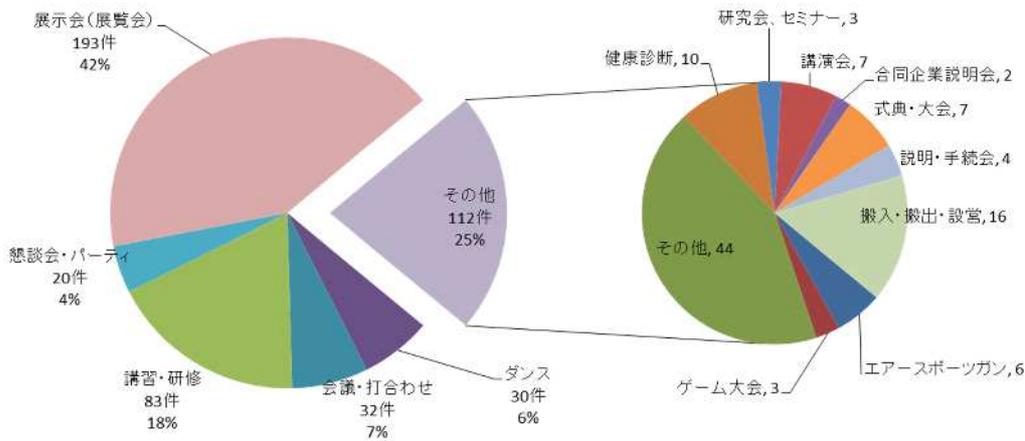
事業	実績
施設の利用貸出	会議室 稼働率：78.8% 利用件数：2,773 件（区内：967 件 区外：1,802 件）
	展示室（サンライズホール） 稼働率：97.9% 利用件数：460 件（区内：191 件 区外：269 件）
講座・セミナー	計 5 回開催、延べ 61 名
ものづくり体験教室	計 3 回開催、延べ 96 名
墨田区生産展示コーナー	・すみだ名製品の陳列展示 ・パネル企画展示（すみだモダン認証商品、すみだ 3M 運動）
PR カード	合計配布数：27,367 枚

<平成 29 年度 施設利用目的>

会議室



展示室(サンライズホール)



(3) 課題

すみだ産業会館は、JR・東京メトロ錦糸町駅に近接し、加えて丸井錦糸町店との共同開発ビルの8・9階に位置しているため、立地としては好条件である。しかし、対外的には、施設の用途が分かりづらいため、目的や対象者を再検討し、効果的なPRを行うことで、施設のイメージ定着を図ることが望ましい。

その際には、錦糸町の南口エリアに位置しているという視点が重要であり、地域に適した機能を改めて見直す必要がある。

区内産業支援施設の今後の方向性

1 区内産業支援施設のあり方

区内事業者だけでは対応しきれない課題の解決を図るため、産業支援施設が開設され、展示機能や産業支援機能など、それぞれの役割を果たしてきた。しかし、開設から一定期間が経過し、各施設が抱える課題は開設当初から大きく変化している。

今後目指すべき方向性として、以下の3項目について、提案する。

(1) 地域特性を踏まえた産業支援の展開

施設の機能は、立地する地域特性や周辺環境によって異なる。

産業構造や社会状況の変化に応じて、地域における役割やニーズを的確に把握し、住民や事業者とともに、課題解決に向けた事業を展開していかなければならない。

(2) 産業支援機関との連携

区内産業を取り巻く課題は、創業や事業承継、操業環境整備など、ますます多様化・複雑化している。区内産業の振興には、事業者・大学・行政・金融機関等の各関係者が、適切な役割分担と連携を図り、常に事業の見直し・拡充を念頭に効果的な事業を展開していかなければならない。

(3) 産業支援のあり方の検討・再構築

高齢化や環境変化への対応など、公益を追求する社会行為が、結果的に企業活動への利益還元となる可能性のある社会となってきた。このため、主に行政により提供されてきた公共サービスは、多様な主体により提供されつつある。

公共サービスについても、区内事業者等と信頼関係を築き、ニーズに対応することが重要であるため、今後、産業支援のあり方を改めて構築していかなければならない。

2 各施設における今後の方向性

区内産業支援施設の今後のあり方については、すでに示したとおりである。これを踏まえ、各施設がそれぞれ目指すべき方向性や役割について、以下のとおり整理した。

(1) テクネットすみだ

施設の有効な活用方法を具体的に検討するため、区内外事業者や墨田区役所の各関係部署に対して、アンケート調査を行った。

特に区が借り上げている2階部分の活用方法を中心に、活用意向の有無、施設活用のアイデアについて質問した。

抽出された主な意見としては、以下のとおりである。

ハードウェア開発を伴う起業家・ベンチャー等の製作物を保管する倉庫、簡易的な動作試験・検証、組立・加工・軽作業等を行う拠点

アーティスト・地域団体・事業者等が集まり活動できる場、文化芸術活動の情報発信・交流拠点

安価で使用できる貸し会議室

新商品・新情報が得られるプラットフォーム的な空間

すみだ中小企業センターの代替施設

区民が有料で使えるレンタル工場

アンケートの結果、いくつかの活用アイデアは得られたが、賃料の全額自己負担による活用意向は見られなかった。

テクネットすみだの立地や、スペースの広さや耐荷重などの施設の強みを活かし、人の集まりや交流が生まれる場として事業を展開していくなど、今後のあり方を検討していくことが重要である。

また、自立して継続的な事業を展開していくためには、建物自体のリノベーション

や継続して運営する新たな仕組みが必要である。区は、その支援をすることで、適切な運営環境の整備を図るべきである。

なお、現状では、製造事業者等の活動拠点とすることが、入居企業との連携が生まれる可能性が高いため、ものづくりベンチャー等の活動拠点整備に向けた調査を行っていく。

ア 立地や施設の強みを生かした事業者連携の仕組みづくり

イ 魅力的かつ継続的な施設の管理・運営体制の構築

(2) 新ものづくり創出拠点

拠点の運営を自律的、効果的かつ安定的に継続していくためには、自社ビジネスにもつながることが望ましい。また、拠点としての機能を強化するためには、その運営ノウハウ等を拠点間で共有することが必要であり、情報交換会等の実施によって、相互の情報共有の機会を創出していく必要がある。

さらに、本事業により、「ものづくりのまち・すみだ」の定着とイメージアップを促進していくためには、各拠点が得意分野において、個別に事業の発信を行うだけでなく、全体としてまとまったPRを行うべきである。

ア 拠点の機能強化・相互情報共有の機会の創出

イ 新ものづくり創出拠点全体としてのPR強化

(3) 国際ファッションセンター

繊維産業の振興を進めていくためには、繊維産業だけではなく、幅広い業種との連携を図りながら、人材育成と商品の高付加価値化に取り組んでいく必要がある。

さらに、ブランディングや販路開拓・売上拡大などの事業は、行政的な制約を受けない広域的かつ柔軟な事業展開が求められる。

このため、区と各支援機関との事業の整理・統合及び具体的な事業展開のための実施体制の構築を検討すべきである。

ア 幅広い業種との連携及び広域的かつ柔軟な事業展開

イ 区の事業との整理・統合及び連携強化

(4) すみだ産業会館

錦糸町駅南口では、客引きや放置自転車等による治安の悪化が大きな問題となっている。一方で、東京東部の副都心として、地域のポテンシャルは高く、錦糸町プラザビルの建て替えやパルコの新規出店により、将来的に南口は大きく変化することが予想される。

今後は、まちづくりの観点からも、各商業施設等との連携を図り、錦糸町南口エリアの強みを活かした取組を地域全体で創出していく必要がある。

すみだ産業会館は、錦糸町南口エリアの将来性や強みを見据えたうえで、従来の展示機能を見直し、地域から必要とされる施設になることが求められる。

ア 錦糸町南口エリアの強みを活かした取組の創出

イ すみだ産業会館の機能の見直し

施設	現状	課題	方向性
テクネット すみだ	産業振興施設として活用するため、2階の一部を区が借り上げている。 施設の老朽化が進み、テクネットすみだ自体の価値が十分に高まっていない。	リノベーション等を図り、建物としての利便性や価値を高めることにより、人が集まる施設として、継続的に施設の維持ができる仕組みを構築する必要がある。	立地や強みを活かし、関連事業者が連携した新たな仕組みづくりが求められる。 魅力的かつ継続的な施設の管理・運営体制の構築が望まれる。
新ものづくり創出拠点	現在、9拠点を整備し、平成30年度にも1拠点整備する予定である。 各拠点では様々な取組が行われているが、開設当初の目的を十分に実現できていない拠点もある。	各拠点の代表者が中心として活動することが多く、運営等のノウハウを拠点同士で共有する必要がある。 自社ビジネスへの還元と地域産業の発展に向けた事業展開や仕組みの構築が必要である。	拠点の機能強化を図るため、相互情報共有の機会を創出する必要がある。 ベンチャー支援等、各拠点が得意分野において、個別に事業の発信を行うだけでなく、全体としてまとまったPRを行うべきである。
国際ファッションセンター（KFC）	売上・経常利益は、不動産賃貸収入をベースに年々増加傾向にある。 開設当初と比べ、現在は事業の成果が表れにくい。従来の公的な創業支援施設のあり方が問われている。	TKF、IFI、墨田区と連携し、産業振興施策の拡充と効率化を図る必要がある。 繊維業界だけでなく、幅広い業種に対応した支援と、他地域等と連携した広域的な展開が求められる。	幅広い業種との連携や広域的かつ柔軟な事業展開を図るため、区と各支援機関との事業の整理・統合及び具体的な事業展開のための実施体制の構築を検討すべきである。
すみだ産業会館	高い稼働率を維持しているが、区外利用が高い割合を占め、利用目的も産業関連の利用が少ない。 開設から30年以上経過したことで、施設の老朽化が進んでいる。	施設の目的や対象者を再検討し、施設のイメージ定着を図ることが望ましい。 錦糸町南口エリアに位置しているという視点が重要であり、地域に適した機能を改めて見直す必要がある。	まちづくりの観点から、錦糸町南口エリアの強みを活かした取組を地域全体で創出する必要がある。 従来機能を見直し、地域から必要とされる施設になることが求められる。

新たな産業振興の展開 『平成30年度 第5回墨田区産業振興会議』

- 利用者にとっては、産業支援機能が一か所に集約されていることが望ましい。
- 「産学官金」が win-win の関係を築き上げ、役割分担を図りながら、相互の連携を強化していくことがカギとなる。
- 墨田区初の4年制大学の開学は、若者がまちに増え、地域にとって大きなプラスになる。
- 単にものをつくる製造業だけがイメージされる「ものづくり」ではない、新しい「ものづくり」という言葉の意味を改めて考えてみる必要がある。
- すみだにしかできないマニアックなものづくりについても目指していくべきであろう。
- 劇的に変化する時代の流れに合わせ、短いスパンで計画の見直しを行い、地域全体で住工融和などの様々な課題を解決していくことが求められる。

結び

平成 30 年度の墨田区産業振興会議では、4 つの区内産業支援施設について現状と課題及び今後の方向性と、それを踏まえた新たな産業振興の展開について議論してきた。

本区は、「ものづくりのまち」として、産業振興のためのハード整備を含め、様々な産業支援施策を実施してきたが、ピーク時には9,703事業所あった区内製造業の工場数は、現在、2,154事業所（平成 28 年度経済センサス）まで減少している。

また、ファミリー世帯の転入が増え、人口は増加傾向にあるものの、区内就業率は約 35%にとどまり、「すみだ＝ものづくり」であることを知る住民は少なくなっている。今後も「すみだ＝ものづくりのまち」と言い続けることができるか否かの岐路にあるという危機感を持ち、住工共存のあり方なども改めて考える必要がある。

一方で、区内では、ものづくりベンチャーなど、新しいものづくりが芽生え始め、さらに、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催や墨田区初の大学の開学は、区内産業に大きなチャンスをもたらすと予想される。

このため、本報告書で示した区内産業支援施設のあり方や、新たな産業振興の展開を踏まえ、来年度は、これまでのソフト事業について検討するとともに、計画期間中ではあるが、平成 25 年 3 月に策定した「墨田区産業振興マスタープラン」を早期に改定する必要があると考える。その際には、社会状況の変化に合わせビジョンを常に見直し、短いサイクルで事業を実施・改善できるプランとしていくことを望む。

資料編 ～平成30年度墨田区産業振興会議 議論概要～

1 第一回墨田区産業振興会議

(1) 概要

開催日時	平成30年5月31日(木) 午後2時から午後5時まで
テーマ	テクネットすみだ [北部：立花・東墨田・八広]
議題	(1) テクネットすみだの今後の活用方法について (2) 地域におけるテクネットすみだの今後の役割について
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・テクネットすみだ(工房サテライト事業)を有効活用するため、地域産業の振興に資する活用方法を検討したい旨、事務局から説明した。 ・テクネット内には、様々な企業が入居しているが、産業振興機能やコミュニティ機能等、いずれの機能を持たせるとしても、全体での連携が重要であるとの意見があった。 ・クリエイターやデザイナー等の若い人たちは、ランチミーティングのような何気ない会話から新たな発想やビジネスを生み出すことが多く、施設内にこれらの交流が生まれる場があると良いのではないかと意見があった。 ・防音、耐荷重ともに問題ないが、老朽化等の影響から建物全体の不動産価値が低い。民間が事業運営やリノベーション等を行うことで、場や建物としての魅力や価値が高まり、人が集まる場所にできるのではないかと意見があった。 ・今後、入居者が廃業等する可能性もあるため、人の入れ替わりが全体として起こる仕組みを構築できると良い。今後の活用を検討する際には、区とテクネットだけでなく、区外の人も交えながら協議を進める必要があるのではないかと意見があった。

(2) 出席者

所 属	氏 名	役 職
学識経験者 (特別委員)	セキ 関 <small>ミツヒロ</small> 満博	一橋大学名誉教授 / 墨田区産業振興専門委員 (非常勤職員)
学識経験者 (特別委員)	ナガサキ <small>トシユキ</small> 長崎 利幸	有限会社アーバンクラフト取締役社長
産業人 (関係者)	スギモト <small>ヒロシ</small> 杉本 浩志	金星ゴム工業株式会社代表取締役社長 / 協同組合テクネットすみだ理事長
産業人 (関係者)	マナカ <small>ハルユキ</small> 間中 治行	株式会社間中木工所代表取締役 / 協同組合テクネットすみだ組合員
産業人 (関係者)	フルヤ <small>クニヒコ</small> 古谷 邦彦	協同組合テクネットすみだ事務局長
産業人 (関係者)	タカハシ <small>コウジ</small> 高橋 浩司	高橋ビジネスプランニング代表 / 公益財団法人中小企業振興公社プランコンサルタント
産業人 (有識者)	イシツカ <small>カスト</small> 石塚 和人	株式会社ものづくり学校企画 / 世田谷ものづくり学校 (IID) 運営
産業人 (有識者)	コバヤシ <small>カズオ</small> 小林 一雄	メトロ設計株式会社代表取締役社長 / イッサイガッサイ東東京モノづくり HUB 運営
区職員 (委員)	カシマダ <small>カズヒロ</small> 鹿島田 和宏	産業観光部長

2 第二回墨田区産業振興会議

(1) 概要

開催日時	平成30年7月23日(月) 午後1時から午後5時まで
テーマ	新ものづくり創出拠点 [墨田区全域]
議題	(1) 新ものづくり創出拠点の今後の展開について
概要	<ul style="list-style-type: none">・各拠点の運営事業者から、それぞれの現状・課題等について発表した。・開設当初の目的が必ずしも達成できていないことが課題であるが、個別にはそれぞれ活動している。一方で、各拠点の代表者が運営の中心で動かなければならない状況があり、拠点内での運営体制の構築は今後の課題であるという意見があった。・自社利益の追求と公共性のバランスを考えたときに、拠点運営を継続させるためには自社利益を優先させる必要性が高い。一方で、業界や地域の発展も考えるべきであり、ビジネスから枠を広げた発想や仕組みもあると良いのではないかとの意見があった。・拠点運営と自社ビジネスが結び付き、その成果や取組を外部に発信すればさらに人が集まってくるのではないかとの意見があった。・全拠点での連携は簡単なことではないが、つながりがある方がより面白いため、年数回程度、全拠点と行政が意見交換する場を設けても良いのではないかとの意見があった。・多種多様な業種が存在することが墨田区の強みであるため、新もの拠点をPRの要とし、「すみだ=ものづくり」のイメージ作りを行う必要があるとの意見があった。

(2) 出席者

所 属	氏 名	役 職
学識経験者 (特別委員)	セキ ミツヒロ 関 満博	一橋大学名誉教授 / 墨田区産業振興専門委員
学識経験者 (特別委員)	ナガサキ トシユキ 長崎 利幸	有限会社アーバンクラフト取締役社長
産業人 (関係者)	アリソノ ヨシカツ 有園 悦克	株式会社サンコー取締役社長 / co-lab 墨田亀沢
産業人 (関係者)	オグラ ダイスケ 小倉 大典	株式会社小倉メリヤス製造所代表取締役社長 / nuuiee
産業人 (関係者)	カタノ カズエ 片野 一恵	有限会社丸ヨ片野製靴所 / レザーラボ MEW
産業人 (関係者)	カナヤ ツトム 金谷 勉	CEMENT PRODUCE DESIGN 代表取締役社長 / 平成 30 年度採択事業者
産業人 (関係者)	ミシマ キワカ 三嶋 貴若	CEMENT PRODUCE DESIGN 執行役 プロデュース部部长 / 平成 30 年度採択事業者
産業人 (関係者)	サイトウ ショウ 斎藤 省	有限会社さいとう工房代表取締役社長 / レル community
産業人 (関係者)	シマダ ジュン 嶋田 淳	株式会社島田商店代表取締役社長 / 両国メルティングポット
産業人 (関係者)	ハマノ ケイイチ 浜野 慶一	株式会社浜野製作所代表取締役 / Garage Sumida
産業人 (関係者)	ヒロタ タツオ 廣田 達夫	廣田硝子株式会社代表取締役会長 / すみだ和ガラス館
産業人 (関係者)	ミヤウチ ヨウスケ 宮内 陽介	株式会社リバネス / アグリガレッジ研究所
区職員 (委員)	カシマダ カズヒロ 鹿島田 和宏	産業観光部長

3 第三回墨田区産業振興会議

(1) 概要

開催日時	平成30年8月30日(木) 午後2時から午後5時まで
テーマ	国際ファッションセンター(KFC)[南部:両国]
議題	(1) KFCにおける産業支援機能について
概要	<ul style="list-style-type: none">・KFCには、自社利益を公共事業へ還元し、東京都等と連携しながら、より効果的かつ広域的な産業振興施策の充実を図ってほしい旨、事務局から説明した。・地場産業として成功している全国の事例をヒントにしながら、人材育成、高付加価値化に取り組み、繊維産業の振興ができるといいのではないかと。繊維産業を軸としながら、すみだの強みを活かし、KFCの事業をブラッシュアップさせ、効率化ができるかとの意見があった。・加工・組立の領域から素材やサービスに近づくと高付加価値化につながる。繊維は素材の領域に近づくと良いが、区内でできないことは他地域と組み合わせながら、互いを補完し合う広域的な視点が必要である。より付加価値をつけて、海外に向けた売り込みとそのための周辺環境整備が必要であるとの意見があった。・範囲を広げた事業展開は必要で、地域内で新しい仕組みをつくり、KFCがそのリーダーシップを発揮する必要があるのではないかと意見があった。

(2) 出席者

所 属	氏 名	役 職
学識経験者 (特別委員)	セキ ミツヒロ 関 満博	一橋大学名誉教授 / 墨田区産業振興専門委員 (非常勤職員)
学識経験者 (特別委員)	ナガサキ トシユキ 長崎 利幸	有限会社アーバンクラフト取締役社長
産業人 (関係者)	オオイシ ヤスカズ 大石 恭寿	大石メリヤス株式会社代表取締役 / 東京ニットファッション工業組合理事長
産業人 (関係者)	オウミ マコト 近江 誠	精巧株式会社代表取締役 / 東京ニットファッション工業組合 組合員
産業人 (関係者)	クボ タカユキ 久保 孝之	国際ファッションセンター (K F C) 株式会社 代表取締役社長
産業人 (関係者)	ウチウミ コウイチ 内海 弘一	一般財団法人ファッション産業人材育成機構 (I F I) 管理部門長
行政機関 (関係者)	ヤザキ サトコ 矢崎 智子	経済産業省 製造産業局 生活製品課課長補佐(繊維担当)
区職員 (委員)	カシマダ カズヒロ 鹿島田 和宏	産業観光部長

4 第四回墨田区産業振興会議

(1) 概要

開催日時	平成30年9月25日(火) 午後2時から午後5時まで
テーマ	すみだ産業会館 [南部：錦糸町]
議題	(1) 錦糸町エリアにおける産業活性化について (2) すみだ産業会館の機能について
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 錦糸町エリアの産業活性化を踏まえたうえで、すみだ産業会館が今後担うべき機能について、検討いただきたい旨、事務局から説明した。 ・ 産業会館が何をしている施設なのか不明確であり、区外利用者が多いことも課題である。産業会館の目的や対象者は何かを改めて検討し、明確にすべきという意見があった。 ・ 若者や起業家向けの施設や FabLab があると良いのではないかと意見があった。 ・ 錦糸町の夜の悪いイメージは昼間の集客にもつながっている。区内では錦糸町の乗降客数が最も多く、ここから人の出入りが起きているため、この悪いイメージを払しょくしないと通勤や買い物客で流出する一方になってしまうという意見があった。 ・ 人を集めるためには、まちの清潔さを維持し、客引き等のマイナスとなる要素を排除するという長期的かつ地道な取組が必要だが、南北間の連絡や JR と東京メトロの乗り継ぎの改善もあるとより良いのではないかと意見があった。 ・ まちの面白さや交通の利便性を考慮すると錦糸町のまちとしてのポテンシャルは高い。地域全体で課題解決に取り組み、イメージアップできると良いという意見があった。

(2) 出席者

所 属	氏 名	役 職
学識経験者 (特別委員)	セキ ミツヒロ 関 満博	一橋大学名誉教授 / 墨田区産業振興専門委員 (非常勤職員)
学識経験者 (特別委員)	ナガサキ トシユキ 長崎 利幸	有限会社アーバンクラフト取締役社長
産業人 (関係者)	イノウエ コウジ 井上 浩司	株式会社錦糸町ステーションビル 常務取締役
産業人 (関係者)	イワセ ダイ 岩瀬 大	株式会社東京楽天地 不動産経営部課長
産業人 (関係者)	インディ ツトム 因泥 務	株式会社パルコ 錦糸町準備室 室長
産業人 (関係者)	カナザワ ヒデキ 金澤 秀紀	株式会社錦糸町プラザ代表取締役
産業人 (関係者)	シラカワ カズノリ 白川 和徳	株式会社丸井 錦糸町店 店次長
産業人 (関係者)	ヤマダ ノボル 山田 昇	墨田区商店街連合会会長 / 東京商工会議所墨田支部副会長
区職員 (委員)	カシマダ カズヒロ 鹿島田 和宏	産業観光部長

5 第五回墨田区産業振興会議

(1) 概要

開催日時	平成30年11月5日(月) 午後3時から午後5時まで
テーマ	産学官金連携 [墨田区全域]
議題	(1) 墨田区における産業振興の新たな展開について
概要	<ul style="list-style-type: none">・墨田区産業の現況について、事務局から説明した。・事業所数が減少するなかで、「すみだ=ものづくりのまち」の意味を考え直す必要があり、住工融和の考え方や産業支援施策のあり方も改めて検討すべきとの意見があった。・行政中心ではできないことも多いため、行政は民間企業のバックアップを行い、役割分担を図っていくことが求められるという意見があった。・長期計画では、社会経済情勢のめまぐるしい変化に対応できないため、短いスパンでの計画やビジョンで事業を実施することが必要となるのではないかと意見があった。・大学と区内事業者等とが連携した取組があると良い。産学官金で役割分担しながら、事業の整理を行い、地域産業の振興を推進する必要があるとの意見があった。・長期的に産業支援施設の見直しを図るのであれば、利用者の利便性を最重要に考えるべきであり、産業支援の機能が物理的に集積していると良いという意見があった。

(2) 出席者

所 属	氏 名	役 職
学識経験者 (特別委員)	セキ ミツヒロ 関 満博	一橋大学名誉教授 / 墨田区産業振興専門委員 (非常勤職員)
学識経験者 (関係者)	ナカムラ イチヤ 中村 伊知哉	i 専門職大学学長
産業人 (関係者)	アベ タカアキ 阿部 貴明	東京商工会議所墨田支部会長
金融機関 (関係者)	シブヤ ノリカズ 澁谷 哲一	東京東信用金庫会長
区職員 (委員)	カシマダ カズヒロ 鹿島田 和宏	産業観光部長